

「チームJAPANの一人として」

加藤 昌樹

(国際審判員)

<チームJAPANの一人として>

健常のバスケットボールにも精通し、Bリーグでも笛を吹く加藤昌樹さん。地元愛知では審判長を務め、8月初旬に行われたインターハイでも多忙の日々を送った。

そんな加藤さんは、現在、車いすバスケ界においても優秀な審判員として知られた存在だ。昨年のU23世界選手権にも派遣され、世界各地の優秀な審判員が一堂に会する中、審判員としては最も名誉ある決勝の舞台に抜擢されたほどだ。

そんな加藤さんも、シニアの“世界大会”で笛を吹くのは初めてのこと。「世界トップを決める大会の審判に選んでいただいたのは光栄なこと。緊張せずに、力を発揮したいと思います」と意気込む。

2004年アテネから4大会連続パラリンピックの舞台で笛を吹いた実績を持つ大先輩の菅野英輔さんからも、二階堂俊介さんと2人、派遣が決定したことを喜ばれたと言い、「正直、通知が来た時にはほっとしました」と加藤さん。

加藤さんが、審判として心がけていることは「ルールに則りながら、試合の流れやコート上の雰囲気大切に笛を吹くこと」だ。

「主役である選手が気持ちよくプレーに集中できる環境をつくるのが、私たちの仕事です」

そのためには時に起こる衝突やふりかかってくるクレームにも、真摯に、毅然とした態度で対応することも必要だ。

「選手やコーチと、私たち審判が、お互いにリスペクトし合えるように、信頼される判定をすることが一番です」

また、加藤さんは審判員にはもう一つの役割があると考えている。

「私たち審判の質を上げることが、ひいては日本の車いすバスケのレベルアップにつながっていると思っています」

実は男子日本代表の及川晋平HCからはよく「頑張ってください」と労いの言葉をいただくのだという。「すごく励みになりますよね。」

U23世界選手権の決勝で笛を吹いた時も、フェイスブックにアップしていただくなど、とても喜んでいただいて嬉しかったです。私たちは日本の試合では笛を吹くことはできません。ですから、どちらが決勝の舞台に立つか、お互いに競い合いたいですね」

加藤さんも心に日の丸を掲げ、チームJAPANの一人として、世界選手権のコートに立つ。

